

個 別 の 人 権 課 題			インターネットによる人権侵害		
校 種	小学校	本 時 に 関 わ る 3 つ の 側 面	知 識 的 側 面	○	
対 象 学 年 等	第5学年		価 値 的 ・ 態 度 的 側 面	◎	
教 科 等	社会		技 能 的 側 面	○	
単 元 名	情報化した社会と産業の発展				

1 単元の目標及び計画

(1) 単元の目標

我が国の産業と情報との関わりについて、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、統計資料などの各種資料を調べたりして、まとめ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

(2) 単元の計画

1次：情報産業とわたしたちの暮らし

2次：情報を生かすわたしたち（本時を含む）

2 学習指導要領等の該当箇所

小学校学校学習指導要領・第3章各学年の目標及び内容・第3節第5学年の目標及び内容

2 内容

(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができる。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(内容の取扱い)

(4) 内容(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 情報を有効に活用することについて、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることに気付くようにすること。

3 本時の目標

情報の適切な取り扱い方について調べ、文章で表現することができる。

4 人権教育との関わり

この単元では、個別の人権課題である「インターネットによる人権侵害」に関連する内容を取り扱う。情報の中には不確かなものや誤ったものもあることを踏まえ、情報の受け手として、情報を収集・選択し、様々な観点から比較して適切に判断することの大切さに気付くようにする。また、情報を発信する際には、不確かな情報や誤った情報が広がることによって、風評被害などが生じ、関係者の人権等が著しく侵害されることがあることを理解できるようにする。

5 本時で育てたい3つの側面

知 識 的 側 面	自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
価値的・態度的側面	人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
技 能 的 側 面	複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能

6 本時の学習過程

学習過程等	人権教育との関わり等	資料等
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでできる主なことを出し合い、その良さを交流し、情報化によって生活が便利になっていることを捉える。 ・新聞記事からインターネット利用に関わる問題を捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○資料「インターネットの普及率（総務省）」 ○資料「インターネット利用に関わる問題を報じた新聞記事」
【課題】 資料からインターネット利用における問題点について読み取り、情報活用における注意点について調べ、まとめよう。		
■学習活動 【資料からインターネット利用における問題点を読み取ろう。】 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用で起こる問題 (例) 友達からの信用を失うかもしれない。 (例) 無断公開は個人情報の流出につながり、悪用されるかもしれない。 ・インターネットを利用した犯罪の件数の変化 (例) スマートフォンやパソコンの普及と犯罪件数の増加に関係がありそう。 (例) インターネットは、おたがいが顔を合わせなくても情報のやりとりができるからではないかな。 ・授業でコンピューターを使う様子 (例) 調べた情報を全て信じたり、まとめる時にそのまま使ったりするのはよくないと思う。 	【技能的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料情報を読み取らせることで、多角的にインターネット利用における問題を捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「インターネット利用で起こる問題」 ○資料「インターネットを利用した犯罪の件数の変化（警視庁）」 ○資料「インターネットを利用する機器の種類（総務省）」 ○資料「授業でコンピューターを使う様子」
■学習活動 【情報活用における注意点について調べよう。】 <ul style="list-style-type: none"> ・受け手、送り手それぞれの注意点について個人で調べ、グループで整理して発表する。 【受け手】 (例) 正しい情報かどうかを見きわめ、情報を選んで受け取る。 (例) 顔が見えない相手を信用しない。	【知識的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の中には、有害なものもあることや、不確かな情報や誤った情報、個人情報等が広がることによって、思わぬ誤解を生んだり、自他を傷つけたりすることにつながるおそれがあることを捉えさせる。 	
■学習活動 【情報をどのように活用したらよいか、考えをまとめよう。】 (例) 情報化によって生活は便利になった。情報活用においては、受け手と送り手それぞれのルールとマナーを守りたい。 (例) インターネットを使いたいじめや犯罪などの問題も増加している。情報活用にあたって、メディアリテラシーを身につけ、自分や友達を傷つけることにつながらないように注意して活用していきたい。	【価値的・態度的側面】 <ul style="list-style-type: none"> ・人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度 【指導上のポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・各学習活動において、大切な言葉をキーワードとして板書しておくことで、人権の観点も踏まえた表現ができるようにする。 	
【まとめ】 わたしたちの生活は情報化によって便利になった。しかし、インターネットを使いたいじめや犯罪などの問題も増加している。情報活用にあたっては、受け手は、正しい情報かどうか見きわめ、情報を選んで受け取り、送り手は不確かな情報や誤った情報を安易に広めたり、個人情報を無断で公開したりしないなどメディアリテラシーを身につけ、自他を傷つけることにつながらないように注意して活用することが大切である。		